

## 第2回百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会



上空から見た百間川分流部周辺の風景



旭川から百間川への導水路周辺の風景

### 「百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会」開催される！

平成16年3月19日（金）岡山市民会館において「第2回百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会」が開催されました。

第2回協議会では、協議会設立趣旨、協議会の運営方法・意志決定方法・進め方、議事録の取り扱いなどについて協議されました。

なお、協議会での協議内容、配布資料、協議の経緯及び結果については、岡山河川事務所のホームページ（広報、閲覧コーナー）に掲示しています。

本号では、第1回協議会資料より、百間川の歴史的な役割についてご紹介します。

## 第2回百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会開催

第2回協議会での協議の骨子、資料、主な協議事項と決定内容は次のとおりです。  
なお、協議会資料及び協議内容等の詳細につきましては、岡山河川事務所のホームページ（広報、閲覧コーナー）をごらんください。

### ●協議の骨子

- 協議会設立趣旨、議事録の取り扱いについて
- 検討の進め方・スケジュールについて

### ●資料

1. 設立趣旨(案)、議事録の取り扱いについて(案)
2. 第1回協議会の概要について
3. 検討の進め方・スケジュールについて(案)

### ●参考資料

- 運営要領、傍聴要領
- 検討対象区域図、用語解説

### ●主な協議事項と決定内容



第2回協議会の様子

#### 協議会設立趣旨について

協議会での提言に対する河川管理者の姿勢をどの程度まで記述するか等について協議され、「河川管理者は協議会での提言を最大限尊重する」趣旨の発言があったことを議事録にて公表することで、現在の設立趣旨の内容に決定しました。

#### 協議会の運営方法について

協議会の運営における事務局（岡山河川事務所）の役割等について協議され、協議会運営は協議会自体で行い、事務局は、協議会から指示された事項を含め、会議資料（案）の作成、議事録（案）の作成、会議内容のとりまとめ及び公表資料（案）の作成、その他の業務を行うことで決定しました。

#### 協議会の意志決定方法について

協議会での意志決定の方法及び規約に記述する内容等について協議され、「参加した委員の合議により決定するものとし、提示された意見は議事録等に記載して保存するものとする」ことで決定しました。また、これには「決定が必要な場合は」の意味を含んでおり、その判断は随時協議することで決定しました。

#### 協議会の進め方について

次回協議会での協議内容等について協議され、まず、「百間川津田永忠記念公園構想MAP」（津田永忠記念公園策定委員会）をベースに話し合い、その後、工事に対する影響を協議していくことで決定しました。

#### 議事録の取り扱いについて

公表する議事録の内容、発言者の公表等について協議され、詳細議事録（生原稿）と議事要旨の2つを発言者名入りで、公表することで決定しました。なお、発言内容は、発言者の責任により発言趣旨を変えないことを前提に、分かりやすい表現等に訂正できることで決定しました。

# 洪水との戦いの歴史

## ① 旭川の変遷

**1** 中世以前の旭川は、龍の口山の西麓から、幾つかに分かれて児島湾に注いでいました。当時の海岸線は、旭川より東で、操山の南麓、旭川より西で、西市付近であったと考えられます。



旭川流路の変遷

**2** 岡山城築造（1590～1598年）の前の旭川は、現在の「中原」から「浜」と「森下」の間を縫って「京橋」へと注ぐ1条の経路にて流れていました。

**3** 岡山城の築造の際、城の防御のため、およそ2 km北方を蛇行していた旭川の流れを、城郭の北から東側を沿い城を取り囲むように付替え、天然の堀としました。

そして

現在の旭川の姿になっています。

## ② 旭川左岸(上道郡)の状況

- 下の「上道郡図」は、百間川築造（寛文の築造：1669年）直前の旭東平野の状況を表しています。
- 小水路が水色、道が赤、低湿地が黄で示されています。
- 百間川築造以前より、上道郡は、旭川左岸の決壊のたびに洪水の被害を受け続けた地域でした。
- 岡山城の対岸、旭川と旧河道に囲まれた川内四か村（竹田・西川原・東川原・浜）は、洪水常襲地区でした。



上道郡図  
(池田家文庫  
岡山大学付属図書館)



現在の様子

## ③ 岡山城周辺の状況

岡山城築造の際の不自然な流路の付替により、水衝部となる石関町付近にて、出水の流れを防げることとなりました。

さらに、上流山林の  
荒廃による流出土砂  
等により

岡山城下は幾度となく洪水に見舞われ、承応3年（1654年）の大洪水により、壊滅的な被害を受けました。



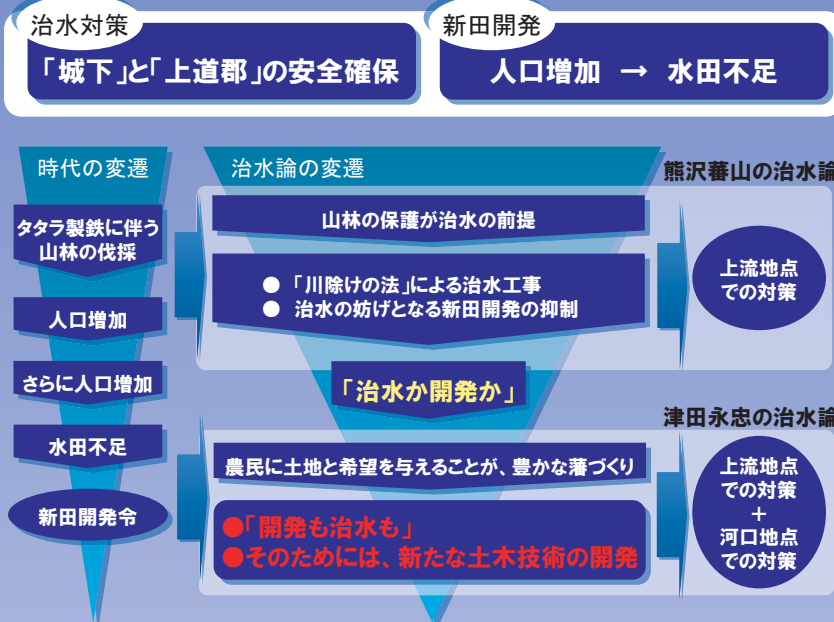
備前国岡山城絵図  
(池田家文庫  
岡山大学付属図書館)



現在の様子

## ④ 岡山藩の2つの重要課題とその対策

当時、岡山藩の重要課題として、旭川の治水対策が取り上げられていましたが、一方で人口増加に伴う水田不足対策のための新田開発も時代の要請となっていました。



熊沢蕃山騎馬画像  
(備前市 正楽寺所蔵)

くまざわばんざん  
熊沢蕃山 (1619~1691)

岡山藩主池田光政に仕え、民に対し恵みある政治を志しています。治水に対し優れた見識を持ち、治水の前提としての山林保護、治山の理論を唱えています。また、山林の伐採が進む時代背景の中で、積極的な治水工事(放水路の整備)や治水の妨げとなる新田開発の抑制を訴えています。一方、心の葛藤をなくし、不動心を確立する教えを説く陽明学者としても活躍しています。

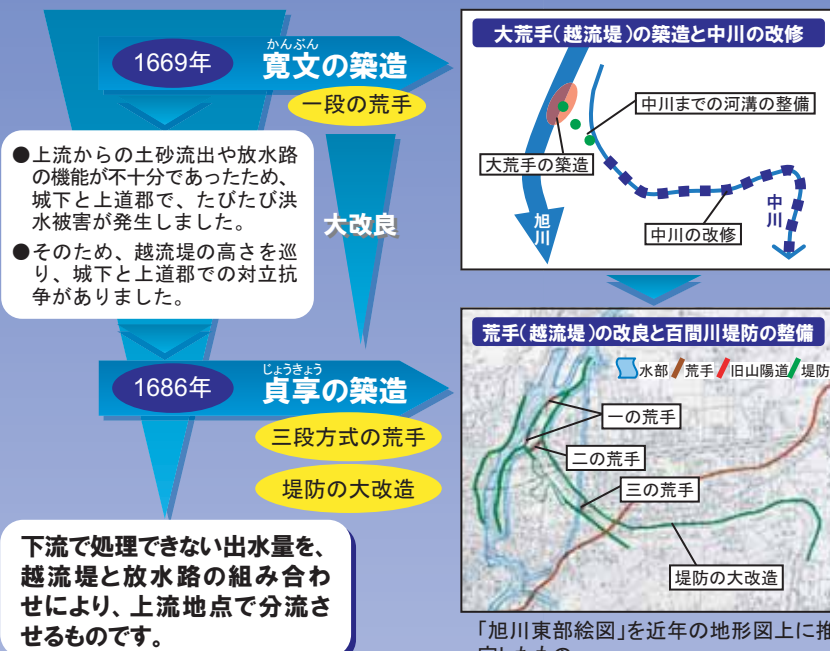


津田永忠像  
(岡山市 沖田神社)

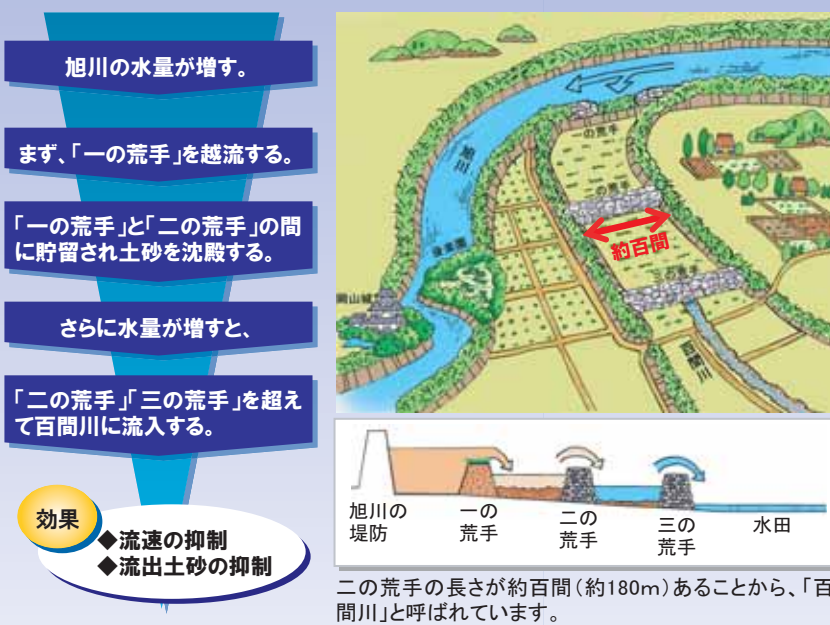
つだながただ  
津田永忠 (1640~1707)

岡山藩主池田光政、綱政に仕え、岡山藩の土木・建築工事を一手に引き受けた名土木技術者です。師匠である蕃山が岡山藩を辞した後、「蕃山の策」として越流堤と放水路を組み合わせた百間川の築造に取り組んでいます。その際、時代の要請として百間川下流での治水と新田開発の両立に挑み、壮大な新田開発を実現させました。

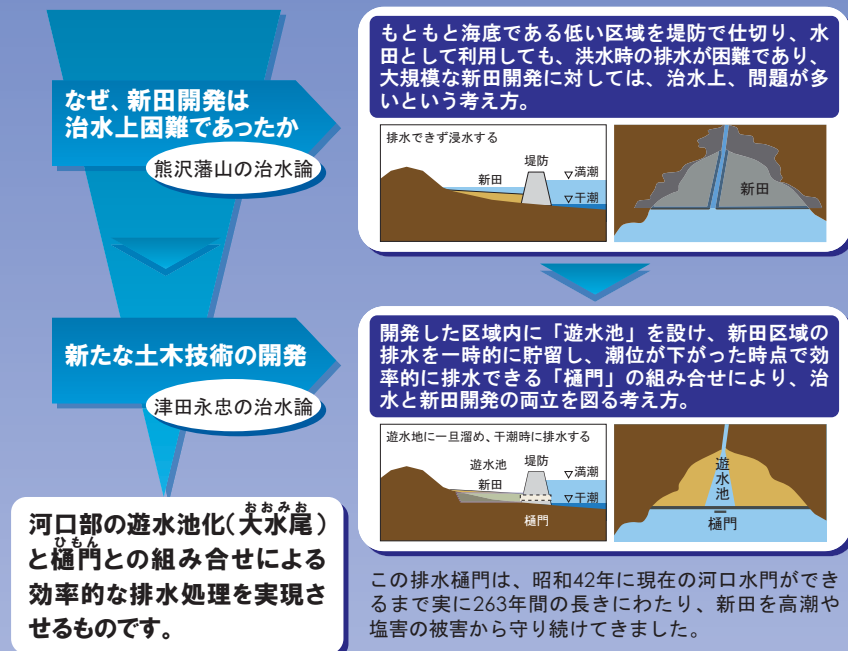
### ● 上流地点での対策とは・・・



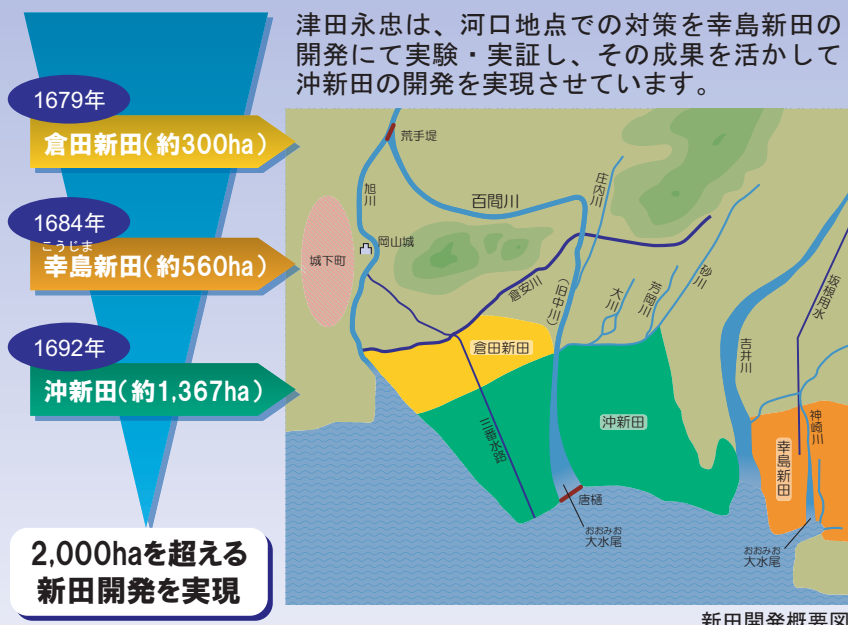
### ● 三段方式荒手の仕組み



### ● 河口地点での対策とは・・・



### ● 新たな土木技術の開発等により・・・



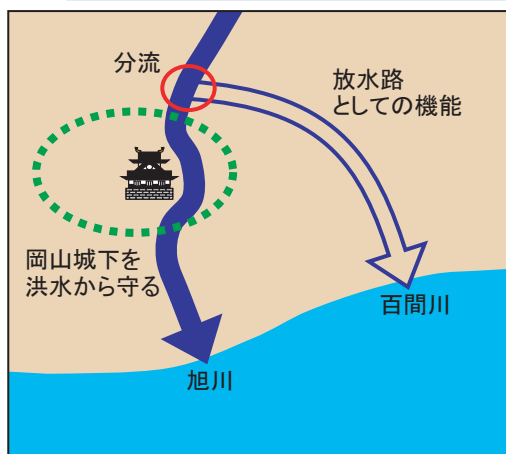
百間川の果した4つの役割

# 百間川の果たした4つの役割

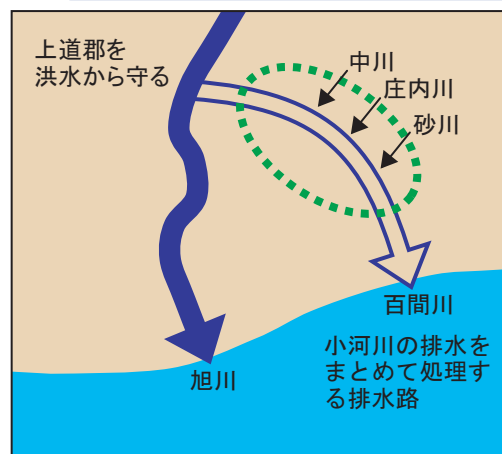
百間川は、岡山の市街地を旭川の洪水から守ってきた放水路として知られています。しかし、この市街地防災の機能の他に、上道郡西部を水害から守り、上道郡沖新田の大開発を可能にし、さらに浸水常襲地区である川内四か村を安全地帯に変え、後樂園の整備も可能としました。

このように、津田永忠によって築造された百間川は、まさに一石四鳥の役割を果たしてきました。

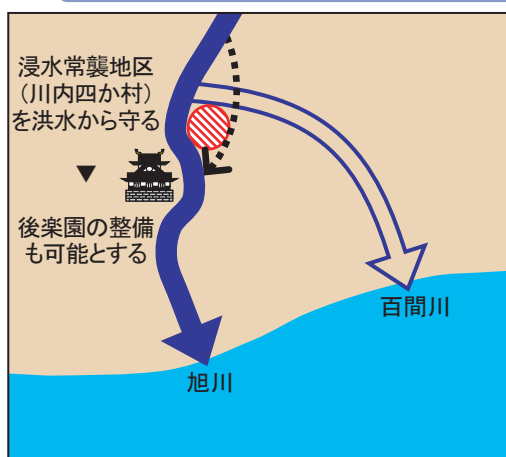
## 1 岡山城下を洪水から守る放水路



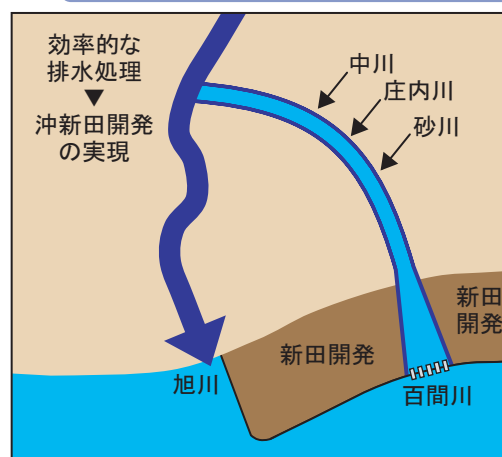
## 2 上道郡内の小河川の排水を処理する排水路



## 3 川内四か村を洪水から守る放水路



## 4 新田開発における基幹的な排水施設



協議会での協議内容、協議会資料の詳細については、岡山河川事務所ホームページ(広報、閲覧コーナー)をごらんください。

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所 調査設計課

岡山市鹿田町2丁目4番36号 TEL 086-223-5101

岡山河川事務所ホームページ <http://www.okakawa-mlit.go.jp>